

西緑地でタシロランが確認されました

周南緑地（西緑地）地内で、山口県のレッドデータブックに絶滅危惧ⅠA類として分類されている希少な植物「タシロラン」が発見されました。

タシロランは、多年生菌根性ランで、茎は高さ5～40cm程になり、7月初旬に白黄色の花が咲きます。開花期間は短く、一週間程度です。

葉緑素を持たず光合成ができない腐生植物です。腐敗した枯葉などに育つ菌類と共生して栄養素を得ています。

発見者の田代善太郎氏にちなんで名付けられました。

生育地として確認されている地域は、国内では、本州（三浦半島、山口県）、九州、沖縄です。県内では、上関町、田布施町でのみ確認されていました。

今回、このタシロランを発見されたのは、西緑地森林公園愛護会の足立龍次会長です。週に一度は訪れる西緑地で、散策中に見つけられたとのこと。

足立さんは「タシロランが見つかったということは、長い年月をかけて西緑地の環境が良くなったということです。環境の証人であるタシロランをこれからも西緑地で見られますように…と期待しています。」と語られています。



平成 27 年 7 月 8 日撮影